

呼子にこんね

—活気ある呼子町を目指して—

呼子町漁協女性部
福浦 澄子

1. 地域および漁業の状況

私たちの住む呼子町は、玄海灘に面した地先の加部島が自然の防波堤の役目を果たし、静かな港町を形成している。

また、中国、朝鮮半島などに近いこともあり、古くから海上交通の要所として栄え、古事記や万葉集にも紹介されている。

呼子はその後も小川島の捕鯨基地や壱岐フェリーの発着港として栄え、現在では、イカの活き造りや、日本三大朝市のひとつとして有名な呼子の朝市など、美しい景色、おいしい海産物を目当てに県内外から多くの観光客が訪れている。(写真1・2)

さて、私たちの呼子町漁協は正組合員150名、准組合員67名、合計217名の組合員で構成され、漁業形態はイカの一本釣り、延縄漁、刺し網漁などを営んでおり、うち約8割がイカ釣漁業であり、呼子町の活力源として大いに期待されているところである。

ケンサキイカ等のイカ類の漁獲量は、平成20年度は約149トン、これは全漁獲量の約60%にあたり、6月頃から主幹漁業のイカ釣漁が盛漁期になり、浜も賑わい、まさにイカの町となる。

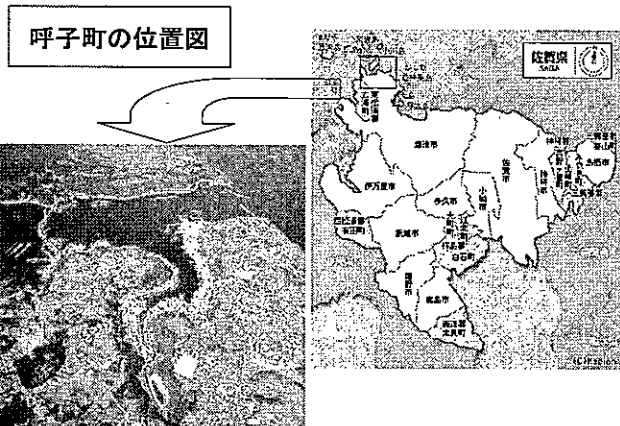
また、「呼子のイカ」としてブランド化し、唐津市の支援の下、東京築地魚市場に陸送にて販路拡大を目指し進出、好評をはくしている。(写真3)

最近ではイカの町としてのイメージアップのため、「イカ検定」を実施し、「イカ検定」の町としても有名になっている。(写真4)

「イカ検定」は平成19年度より毎年1回実施され、第1回目は674人が受検し、628人の受検者が合格している。合格者には加盟店よりいろんな特典があり、満点合格者には「イカマスター」なる更なる検定試験への挑戦権が与えられ、見事「イカマスター」になれば、朝市どおりの公園にハリウッドスター並に名前が刻まれるようになっている。

「イカ検定」の問題をいくつか紹介すると

【問題1】イカの血液の色は何色？



A 赤、B 青、C 白、D 透明 『答え』・・・Bの青色。

それではもう1問

「呼子の漁師言葉で小さなイカの事を何と呼ぶ」

A コゾウ、B ハナタレ、C ボウズ、D チビ

『答え』・・・Bのハナタレ。

このような問題が100問出て70問正解すると合格となる。

2. 女性部の組織と運営

さて、私たち玄海地区の漁業を取り巻く環境は、水産資源の減少や安い輸入水産物の増加などのために国内価格が低迷していること、原油価格の高騰さらに世界同時不況により国内景気も冷え込んでいることなどから、たいへん厳しい状況となっている。

私たち呼子町も、直接また間接的に影響を受け漁家経営は以前にも増して厳しくなっており、また、後継者不足や、漁業従事者の高齢化など漁業生産構造も大きく変化している。(表1・2・3)

現在女性部員は110名で、以前は「生活物資の販売」を主に活動してきたが、最近では女性部員も勤めに出る人が多くなり、女性部の活動は年々低下傾向となっている。女性部活動の衰退が懸念される中、玄海水産振興センターが海産物を使った「かりんとう」を開発したという話を聞き、女性部活動活性化の一助にと、グループを発足させ取り組んだが、不況のあおりを受け成果はあがらず、1人減り2人減りでいつのまにか休止状態となっている。

女性部は現在「家庭で出来る活動」をテーマに、わかしお粉石けんの普及活動、地域の美化清掃作業、貯蓄推進に取り組み、「自己啓発活動」をテーマに、「イカまつり」への参加との二本の柱を軸に活動している。(表4)

「イカまつり」への参加は、普段他の水産関係の方々との交流が少ない私たちにとっては、たいへん貴重な場となっている。

3. 課題選定の動機

呼子町では平成8年から「呼子町イカまつり」が毎年開催されている。イカまつりは当初、「呼子のイカ」を町内外にPRし、ブランド化させて価格の向上を図り、更には呼子町漁業関係者が主体的に行動していくことで漁業者組織の活性化、町内外のまつり参加者との交流と理解を深めることを目的として、昨年まで12回開催されている。(写真5)

開催当初から実行委員会には女性部も加わり、まつり内容や運営について女性の立場から意見を出し協力している。(写真6)

回を重ねる毎に、イカまつりの運営も良くなり、お客様に喜んでもらえるようになってきている

イカまつりを実行するにあたっては、女性部の協力が不可欠であり、勤めに出る人が多く全員の協力は望めないが、女性部の活性化のため、漁協青壮年部とともに、

イカまつりをやり遂げたいと、一生懸命取り組んでいる。

これは、男女が共にひとつの組織に参画し、支援のもとにお互いに協力して運営していく「男女共同参画社会」のお手本のように思える。

4. 研究・実践活動及び成果

イカまつりは「イカまつり参加券」と引き換えにイカ、サザエ、アジ等のセットをもらい自由に焼いて食べていただき、手作りのプールで生きイカのレースをする「イカ様レース」「魚のつかみ取り」「客船でのクルージング」等のイベントに参加していただくまつりであった。

多くの人に参加していただきたいという思いで、青壮年部は沖を何日も休み、役場の職員さんや漁協の職員さんと共に会場作りや町内外へのPR、女性部は総動員で1,000食分の引き換え商品のセット作りと大忙しであった。しかし、お客様は参加券でしか参加できず、また参加券を持ちながら来場されなかった人の分は商品が無駄になるなどのことから、幾度となく協議を重ねて、現在では参加券ではなく、特産市場を常設し、呼子町の水産物や特産品を中心とした土産物、飲食物の販売を用意し、誰でも自由に来場していただき、お客様が購入された水産物や塩乾物をその場でパーベキューにして食べてもらうようにしている。(写真7)

去年は雨が降りお客さんがこられるのか心配したが、そんな不安もすぐに立ち消えるほどの大勢の来場者でにぎわった。

私たち女性部は飲食物の販売の一つである「イカの天ぷら販売」「飲料販売」を受け持ち、日頃家庭で天ぷら料理をしており、販売に関しては朝市での経験がある者ばかりなので、うまくこなせると思っていたが、「イカの天ぷら販売」では天ぷらを揚げる熱風とまつりの熱気で顔は真っ赤になりながらお客さんと笑顔での接客はあわただしくたいへんなものであった。しかし苦勞した甲斐があり、用意していた500食分があっという間に完売になる大盛況ぶりとなった。(写真8)

青壮年部も「イカさまレース」から変わった『体験魚釣り』のスタッフとして、子供たちに優しく面白く魚釣りの指導をし、事前のPRのおかげで遠いところでは宮崎県からも参加され、来場者数は雨にも関わらず、前年同様4,000人の人出で賑わった。(写真9)

5. 波及効果

参加された方に感想をたずねると「イカのいろんな料理があり、呼子のイカはおいしかった」「いろんな土産物があり飽きなかった」「生きたイカや魚を子供たちが見たり、触れたり、食べておいしいといていた」など、まつりの感想から魚食普及に繋がる感想までいろんな意見をいただいた。このような意見や感想を聞くと、準備などの苦勞や当日の疲れが吹き飛ぶ思いであった。(グラフ1・2・3)

女性部員の各持ち場をやり遂げた安堵と充実感に満ちた晴れ晴れとした笑顔や、参加された方々の満足そうな笑顔を見たとき「なんの為にこんなことをしなくてはいけないの？」という疑問と腹立たしさは一瞬のうちに消え「もっと効率よく売る

にはどうしたらよいか?」「私だったらこんな特産物、販売物が欲しい。」「どうすれば呼子にまた来てみたいと思ってもらえるのか」と次なるイカまつりのことを部員同志で考えている。

このイカまつりを通して女性部は漁協をはじめ、漁協青壮年部や関係機関と積極的に話し合い、女性部で出来る今後の活動に向けて大きな自信と誇りを持つことができた。

6. 今後の課題や計画と問題点

女性部活動の基本とも言える「人の和」を常に忘れずに活動していくには、働きに出る部員が増え、活動が低下していく中、難しいことではあるが、「イカまつり」を通して女性部内に強く固い絆ができ、また他の漁協女性部や水産関係者などとの横のつながりが強固なものになりつつある。私たち女性部の活動が呼子町のPRを担っているとすれば一人でも多く呼子町に来ていただいて満喫してもらうことは、この上なく喜ばしいことである。

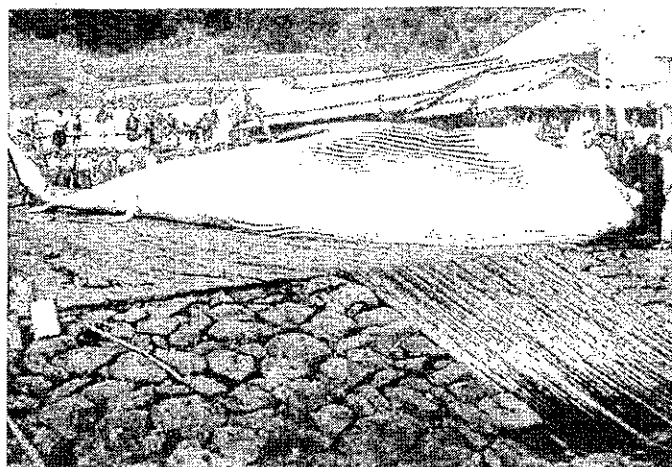
今後も、また水産関係者の協力のもと新たなイカまつりが開催されるので、イカまつりだけでなく機会がありましたらぜひ、呼子においでください。まだまだ他に知られていない浜の郷土料理や魅力がたくさんあり、そういうものを発見してまた新たな喜びが味わえますよ。

“皆さん！ 呼子にこんね”

私たち女性部は、これからも部員一同結束を固め、女性部活動を通して、広く呼子町をPRし、地域の活性化につなげていきたいと思っている。

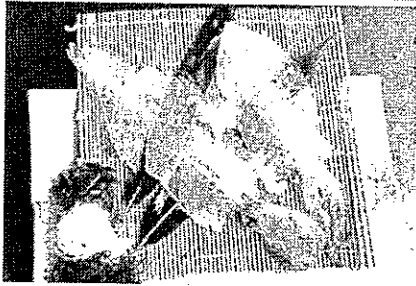


(写真1) 捕鯨基地として栄えた小川島



(写真2)

呼子名物イカの活き造り



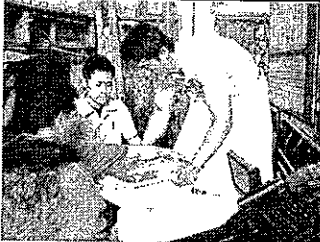
日本三大朝市
呼子の朝市



(写真3)

「呼子のイカ」東京築地魚市場へ陸送

東京築地魚市場活魚水槽への呼子イカ搬入



呼子イカの試食会の様子

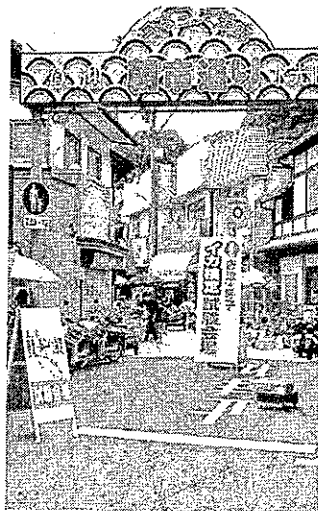


築地市場での呼子イカのセリの様子



(写真4)

唐津・呼子イカ検定

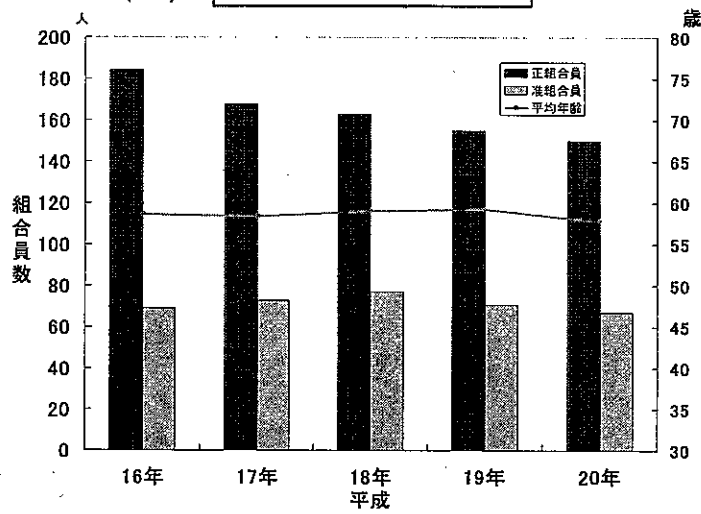


受験者の皆さん

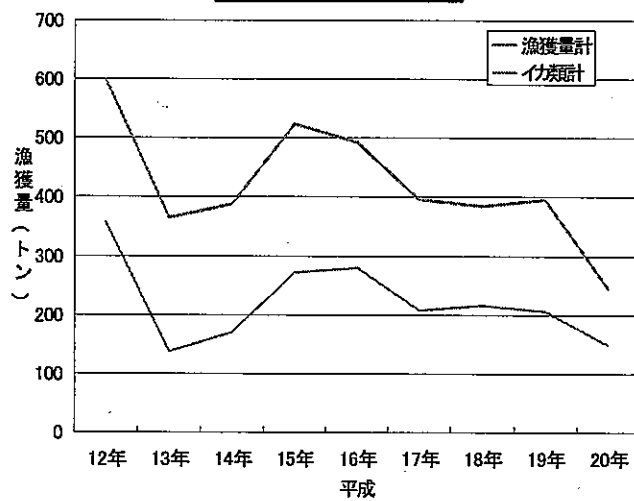
満点合格者は
イカマスターとして
名前が刻まれます。



(表1) 呼子町漁協の組合員数の推移



(表2) 呼子町漁協の漁獲量の推移



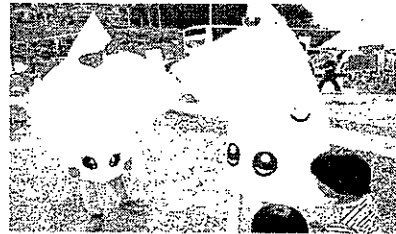
(表3) 呼子町の現状

- 漁業の衰退
 - ・イカ漁獲量の減少
 - ・水産物価格の低迷
 - ・漁業従事者の高齢化、後継者不足
 - ・原油価格の高騰
- 観光客の減少
 - ・フェリー発着所の移転

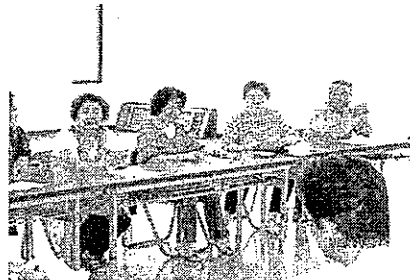
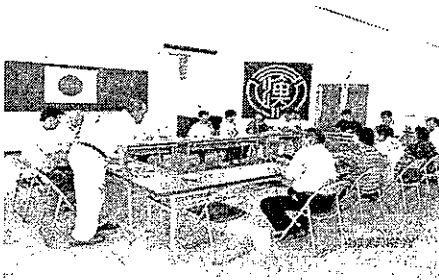
(表4) 現在の女性部活動

- 家庭で出来る活動
 - ・わかしお石けんの普及活動
 - ・地域の美化清掃
 - ・貯蓄推進
- 自己啓発活動
 - ・イカまつりへの参加

(写真5) 呼子町イカまつりのポスター

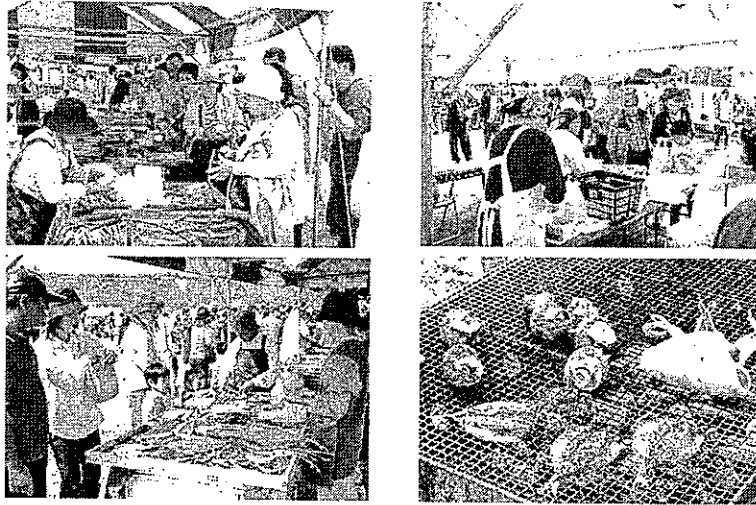


(写真6) イカまつり会議の様子



(写真7)

イカまつりの様子



(写真8)

女性部で「イカの天ぷら販売」



(写真9)

青壮年部の「釣り体験」

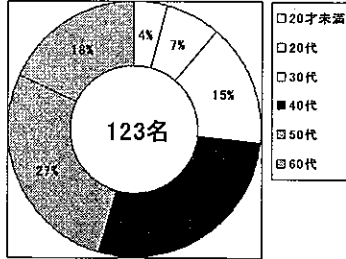


(グラフ1)

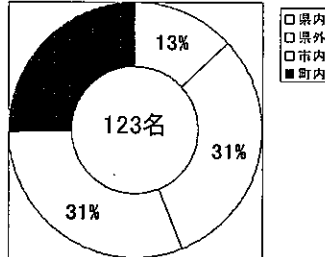
【イカまつりアンケート結果表】

20年10月26日第13回呼子町イカまつりにおいて、実施されたアンケートの結果は、下記のとおり。
来場者数約4,000名 アンケート協力者123名

アンケート協力者年齢別表



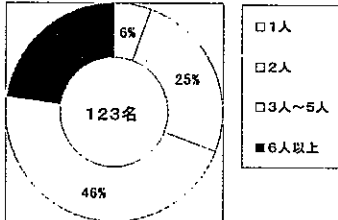
協力者住所



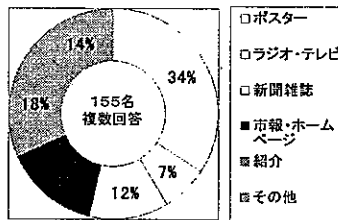
- ・県外では、福岡県からの来場者が半数以上を占めている
- ・長崎、大分、熊本、宮崎からも若干名来場
- ・最も遠方は埼玉県(ホームページにより)
- ・県内は、佐賀市、鳥栖市、神埼市はじめ各地より

(グラフ2)

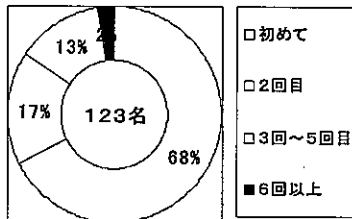
本日は何人で来られましたか？



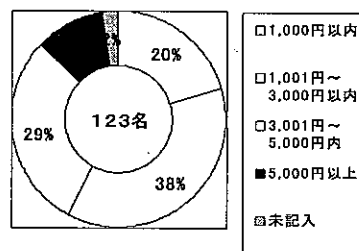
何によりイカまつりを知りましたか？



イカまつりに参加されるのは何回目ですか？

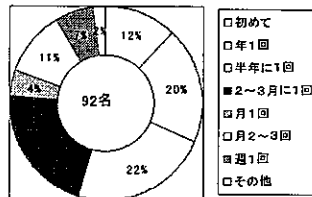


いくらぐらい買い物されましたか。又される予定ですか？

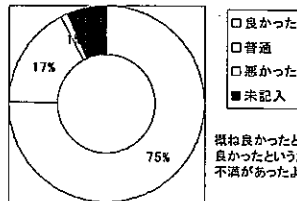


(グラフ3)

どれくらいの割合で呼子町に仕事以外でこられますか？

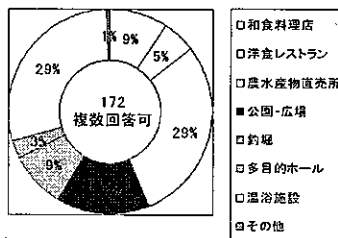


イカまつりは、どうでしたか？



概ね良かったという意見であるが、良かったという意見でもいくらかの不満があったようである。

会場周辺にはどのような施設があれば良いですか？



その他 自由意見
【好意的な意見】

- ・魚介類のうまさがおもしろかった
- ・新鮮でうまいものが買えた良かった
- ・バーベキューの無料使用が良かった
- ・買ったものがその場でバーベキューで食べれて良かった。
- ・値段が安かった
- ・海上遊覧が楽しめた
- ・イベントの盛り上がり良かった
- ・生きた魚介類を子供たちが見たり触れたり出来て良かった

【不評的な意見】

- ・イカなど早めに売り切れたものがあった
- ・日陰があると良かった
- ・テーブル・イスが少なく食べるのに困った
- ・農産物、食卓処があれば良かった
- ・会場へのアクセス案内が不足していた
- ・トイレ不足並びに身障者用がない
- ・イベントの盛り上がり良かった
- ・持ち帰り用保冷袋、氷の販売が欲しい